※これは、道内に事業所を置く広告代理事業者の年間売上高（約９８０億円）を上回る。（経済産業省平成19年特定サービス産業実態調査速報）

②生産波及効果（直接効果・ポストサミット効果）

計測方法を平成12年北海道産業連関表に基づく均衡産出高モデルを利用。雇用者所得の増加とした所得効果を反映。

直接効果（プラス、マイナス効果）とポストサミット効果（国際会議の件数増加、観光客増加）について計測。

結果は直接効果（マイナス効果含む）は約３５０億円、ポストサミット効果は約２８４億円、合計６３４億円と見込まれます。

※これは、北海道経済への恩恵は非常に大きなものであると考えられます。

【結論】

ポストサミット効果は、国際会議増加分と観光客増加分を合わせて（５年間）約２８４億円見込まれる。しかし、国際会議の開催や観光客の増加が実現するかどうかは、あくまでも努力が必要となっています。

この要素を報道を通したＰＲ効果を加えると約１、６４７億円となります。

サミット開催による洞爺湖町の変貌 何が残ったのか

北海道洞爺湖サミットによる洞爺湖町の経済効果

①北海道洞爺湖サミット開催決定によるライフラインの整備

・光ファイバーの設置と今後の利用として、これまで洞爺湖町内には一般利用者が手軽に利用できる光ファイバーの整備がされておらず、未整備地域であった。今回のサミット開催に向け整備され、町内全域の整備計画が現実的となりました。

・国道２３０号の改良整備として、洞爺湖温泉地区からルスツ、札幌方面へと続く主要幹線の道路整備がなされこれまで以上の機能向上が図られました。（交差点改良、路盤改良、落石防御壁、ガードロープなど）

・洞爺湖周辺のトンネル内での携帯電話不感地帯解消整備（国道37号、２３０号、高速道路の各トンネル、他）

・国道・道道・町道など道路誘導板、総合案内板の設置

②洞爺湖周辺の景観整備

・廃屋などの景観整備として、国道２３０号沿線の廃屋、看板などの取り壊しや公園整備（望羊台公園、噴水公園など）

・花壇、飾花整備として、道路沿線の花いっぱい運動や街灯へのハンニングバスケット設置

・洞爺湖八景の設置として、洞爺湖周辺の新たなビューポイント８カ所を新たに設置。

③洞爺湖町情報発信

・サミットホームページの開設により、洞爺湖町の紹介を英語版も入れて新設し、国内外から多くの利用者によるアクセス数が得られました。

・各種パンフレットの他言語版作成

・環境問題への取り組み紹介（雪蔵・ヒートポンプ・ＳＶＦデーゼル車両燃料など）

④洞爺湖温泉にロジ本部を設置した各国のホテル利用状況

○アメリカ：ホテル萬世閣　○ロシア：湖畔亭　○日本：ホテル天翔　（外務省・環境省・防衛省・厚生省・国土交通省・北海道）　○イギリス：北海ホテル　○ＥＵ連合：フェニックス洞爺　○イタリア・ドイツ・フランス・カナダ：サンパレス

※警備に関わる警察関係者については、道内に２１、０００人（国内全都道府県より）がサミット警備などに従事し、洞爺湖周辺のホテル・旅館・ペンションなどの宿泊施設を利用しました。

町民の声

▼通訳ボランティアのスタッフは大学生も含め十分だったと思います。旧洞泉閣での日本文化紹介コーナーはとても喜ばれていました。生花・茶道・琴の体験など日本文化の「香り」を楽しまれたと思います。最終日にはカナダの代表団の方からバッチを頂きました。

▼思ったほど海外メディアの方が温泉街をぶらつくことが少なかったので仕事がなかった。しかし、掲示物・パンフレットなど英語表記が間違って使われていることに気づいたので公にする前にチェックが必要。

▼多くの海外の方々が利用頂き国際交流の体験ができ良い思い出になりました。

▼サミットのテーマである環境問題について、自分自身も大きな意識付けされエコ袋を使うようになった。

▼子どもが地球の環境に関心をもって、ものを大切にするようになった。

▼期間中、大勢の外国人客をはじめサミット関係者に利用してもらい、開店以来の盛況であった。